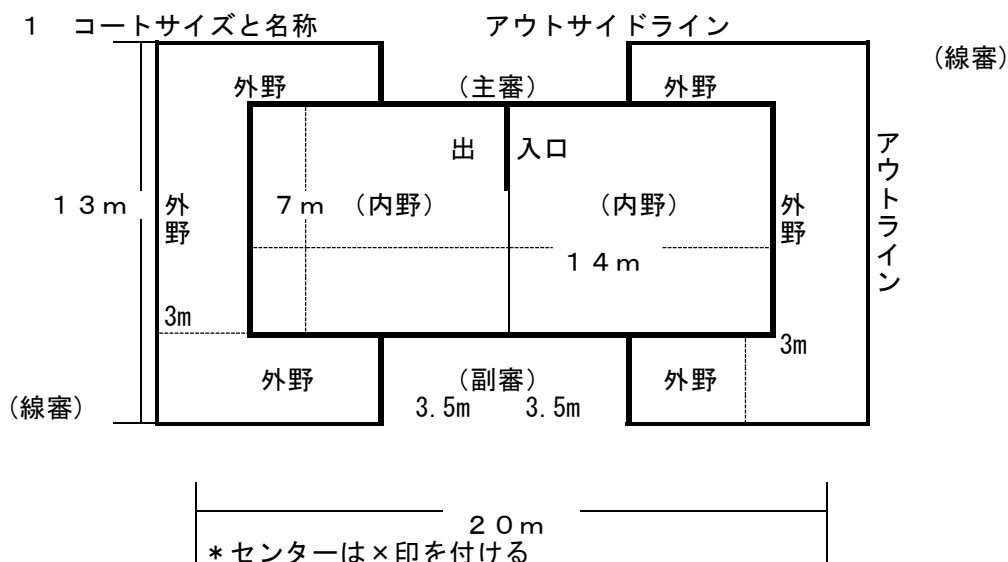


令和6年度小学生ドッジボール大会 (交流の部) 競技規則



2 チーム構成 (資格と人数)

- ・監督大人1人、選手8人 (試合中交代なし)
- ・選手は小学生とし、男女混合チームも可。

3 競技時間

- ・1試合5分とする。(ランニングタイム)

4 用具

- ・高学年：日本ドッジボール協会公認3号ボールを使用する。(モルテンMSDB)
- ・低学年：スマイルボール2号を使用

5 競技方法

① 自陣の選択

試合前に両チームの代表がジャンケンでコートを選択権を決める。

② 選手の権利及び位置

- ・試合開始時には、コート場に8人の選手が出場していなければならない。
- ・試合開始時外野には1人以上7人以下を配置することができるが、外野の選手が内野に入る場合は、相手内野の選手をアウトにしなければならない。
- ・内野でアウトになった者は、すぐに外野に出る。
- ・外野で相手をアウトにした者は、外野に1人以上いる時は直ちに内野に復帰できる。
- ・外野で内野に入る権利を持つ者がいる場合、外野が1人を割らない条件で実行する。直ちに行動しない場合、その権利は、失効する。
- ・外野で内野に入る権利を持つ者が相手をアウトにした場合、重複して内野に入る権利は生じない。
- ・内野に入る権利を他の者に譲ることはできない。

③ 試合開始

- ・じゃんけんによりコート・ボールの選択をする。
- ・主審のホイッスルによりゲームを開始する。

④ 攻撃

- ・反則に気をつけ、内外野の連係プレーなどで相手内野を攻撃する。
- ・外野は相手をアウトにした時、直ちに内野に入る。ただし、外野の人数1人を割らないこと。
- ・内野に入る場合は主審、副審の後ろを通過して入ること。
- ・外野から内野に入る者を故意に狙ってはいけない。

⑤守備

- ・相手の投げたボールが床に着く前に、体（頭部以外）にあたり、ボールが床に着くまでに、自分あるいは味方が捕球できない場合アウトとなる。また、相手が捕球した場合もアウトとなる。
- ・相手の投げたボールが2人以上にあたり、ボールが床に着いた場合は、最初にあたった1人がアウトになる。
- ・アウトになった者は、速やかに外野へ出る。
（アウトになった者が、わざとボールにふれた場合は相手内野ボールとなる）

⑥タイム

- ・競技中のタイムアウトは認めない。（事故等やむを得ない場合を除く）
※審判の判断よりタイムを取る

⑦アウト オブ バウンズ

- ・ボールがアウトライン、アウトサイドラインを越えた場合は、最後に触れた反対側のチームの内野ボールとなる。
その際、主審のホイッスルで再開する。

⑧勝敗の決定

- ・時間内に相手の内野をすべてアウトにした場合、その試合を終了する。
- ・両チームとも内野が残った場合には、人数の多いチームを勝ちとする。
- ・内野に残った人数が同じ場合は、Vポイント（サドンデス）により、どちらかのチームの一人が当てられるまでゲームを延長し勝敗を決定する。

⑨反則

反則があった場合には、主審がボールの支配権を指示する。支配権を持ったチームが、主審のホイッスルで試合を再開する。

オーバーライン

- ・投球し、その動作が終わるまでに、ラインを越えてはいけない。捕球の場合も同様とする。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

※この大会の特別ルールとして、交流の部のオーバーラインとは足が完全にラインを超えた場合に適用する。ライン上に足の一部がかかる場合はオーバーラインとはならない。

オーバータイム

- ・味方同士のパスは4回までとする。反則（遅延行為）の場合、相手内野ボールとなる。

スティール ザ ボール

- ・相手コートにあるボールをとってはいけない。ただし、ボールが空中にある場合は、この限りではない（相手コート内でドリブルは反則）。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

ラフプレイ

- ・頭部をねらう攻撃。（ゲームを中断し、両チームの監督の確認をとる）
 - ・転倒者をねらう攻撃
 - ・故意のキック。
 - ・その他、審判が危険と判断したプレー。
- 反則の場合は、その度合いにより、アウトもしくは退場になり、相手内野ボールになる。

その他

- ・判定に対する審判への抗議は受け付けない。
抗議した場合は、アウトもしくは退場とする。

⑩応援

- ・アリーナには、選手8人と監督1人のみ入ることができる。よって、応援の者は2F観客席からの応援とする。
- ・2F観客席からの判定に対する審判への抗議は受け付けない。
マナーが守れない場合は、そのチームに警告等の罰則があたえられる。